

もち米に特化した精米加工における革新的選別プロセスの開発

株式会社森田商店

豆類ともち米から日本の食文化へ貢献

産地から豆類を提供



高品質なもち米を生産する精米加工設備

森田商店は昭和32年設立の小豆を中心とする豆類卸業。「産地と深いコミュニケーションを築き上げてきた」（森田欣一社長）ことを強みに、主に東海3県の菓子メーカーや問屋に良質な豆類を卸してきた。その内、小豆は天候によって収穫量が左右されることがあり、年によっては「（価格が）2倍にまで跳ね上がった」（同）ことも。安定供給・安定価格をめざし契約栽培化に踏み切り、価格を固定したことにより収益は下がった。そこで豆類に加え、もち米卸に参入した。顧客の多くは和菓子メーカーということもあり「小豆ともち米、両方を合わせ売りすることは需要があった」（同）。

もち米は季節商品だ。正月を控えた12月末の需要が最も高く、繁閑の波が大きい。森田商店の取引先の精米加工メーカーも、設備の老朽化と後継者問題から廃業を検討していた。

卸から精米加工にも進出

取引先の精米加工メーカーに同社から社員を派遣したところ、設備は古く「永続的に使えるものではなかった」（同）。そこで同社は、自社でメーカー機能を持つことを決意。社屋と隣接する土地を購入し、設備は、「平成29年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」を活用し、精米加工に必要な色選タンクと色彩選別機、昇降機、コンプレッサーを取りそろえることで「精米加工メーカーとしてモノづくり参入を決めた」（同）。

中でも色彩選別機にはこだわった。中型カラーシステム色彩選別機2台を導入。色彩選別機に原料を通すことで、より高品質なもち米の生産ができる工場となった。



色選タンクで選別した米。米を取り出し、純度を確認する様子

顧客ニーズを最大限叶える

自社でもち米を取り扱うことで、顧客の要望に応じた商品を提供できるようになった。例えばサイズ。従来は30kgしか対応できなかったが、工場で袋詰めを行うことで、少量からでも販売が可能になった。ほかにも、顧客のニーズに合致するような商品提案ができるようになるなど「営業の幅が広がった」（同）と笑顔を見せる。



生産したもち米が積み上がる

またメーカー機能を持つようになったことで「モノを作る楽しさ」も生まれた。「どのようなラインとすれば効率よく加工できるのか」、「純度の高い良質なもち米を生産できるのか」を考え、ラインの改善を繰り返す。設備導入時に協力を得た生産設備メーカーと共同で、機械と機械をつなぐパイプの角度などを調整、改善を繰り返しており「日々、より効率よく生産できる工場づくりを心にかけている」（同）という。

顧客に選ばれる会社

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年5月の売り上げは「壊滅的だった」（同）と表現する。精米加工では新規参入者であることと、主要顧客先である和菓子メーカーの商品が、インバウンド需要の減少などで売れなくなったためだ。それでも、森田社長は「勉強代として割り切り、アフターコロナでどう動くか」と気持ちを切り換える。

精米加工メーカーは今も、統廃合が進んでいる。同社でも工場建設以降、業務委託の話が多く寄せられた。森田社長は「なかなかウチみたいな機械を取りそろえている会社がないことが大きい」とするが、業界自体の縮小は否めない。この状況下で生き残るためにも、顧客のニーズに合致した商品提案と生産ラインの改善を進め、「顧客に選ばれるような会社を目指す」（同）と意欲を燃やす。



工場新設し業務委託が増加

企業データ

企業名	株式会社森田商店(もりたしょうてん)
代表者役職名・氏名	代表取締役 森田欣一
設立年月日	昭和32年9月1日
住 所	〒454-0821 愛知県名古屋市中川区宗円町二丁目21番地
電 話	052-362-0811
FAX	052-362-0814
URL	http://mame-mochi-morita.com/index.html
E-Mail	morita-co.ltd@nifty.com
資本金	1000万円
業 種	豆類卸、もち米の精米加工販売
従業員数	13人



産地とのつながりが強みと語る森田欣一社長